

今週のメニュー

■トピックス

◇全国中学校理科教育研究会（島根大会）でプラスチックを紹介

プラスチック教育連絡会

■随想

◇アフリカ旅行記 番外編：ちょっと意外なはなし（1）

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■編集後記

■トピックス

◇全国中学校理科教育研究会（島根大会）でプラスチックを紹介

プラスチック教育連絡会

学校の夏休みを利用して、先生方は研究会を開催することが多いようです。その一環として、去る8月7日、8日島根県松江市のくにびきメッセにて、第61回全国中学校理科教育研究会（島根大会）が開催されました。

これまでも何度か紹介していますが、3年前から中学校の理科カリキュラムに取り上げられたプラスチックについて、[プラスチック教育連絡会](#)（一般社団法人日本化学工業協会（日化協）、プラスチック工業連盟（プラ工連）、一般社団法人プラスチック循環利用協会（プラ循環協）そして塩ビ工業・環境協会（VEC））として、ブース展示に参加しました。昨年の東京大会に次ぐ2回目の展示参加で、各協会から以下のようなプラスチック授業の参考に役立つ資料を持ち寄りました。

日 化 協；「プラスチックとわたしたちの暮らし」（DVD）、「実験で化学をまなぶ」

プラ 工 連；「こんにちがプラスチック」、「食品用プラスチック容器包装の利点」

プラ循環協；「プラスチックリサイクルの基礎知識」、「プラスチックとリサイクルの8つの「^{はてな}？」」、「プラスチックとプラスチックのリサイクル」

V E C；「調べてわかるプラスチック」、プラスチックサンプル

大会には、全国から約600名の先生方が集まり、講演会や分科会の合間にわれわれの展示ブースに立ち寄っていただきました。先生方からは、「プラスチックの授業を始めるところだったが、どのように進めていくか困っていたところで、ちょうど良かった」、「役立つ



第61回 全国中学校理科教育研究会



プラスチック教育連絡会の展示ブース

資料をもらえて助かります」、「とても参考になりました」、また、出前授業の話しをすると、「遠くでも来てもらえるのですか？」と様々なお言葉をいただきました。中には、プラスチックの燃え方や水への浮き沈みの様子をビデオに撮り、そのプラスチックが何であるかを考察するというプラスチックを題材とした研究授業をやってみたいとの意欲のある先生もおられ、そのためにも、われわれが準備したスタンダードとなるプラスチックサンプルの存在は、欠かせないと大変喜ばれておりました。準備した資料は、好評のうちにすべて配布しましたが、特に、日化協の「プラスチックとわたしたちの暮らし」というDVDについて、プラスチックの燃焼実験や溶解実験の様子が収められていることを説明すると、大変興味を持って手にされていました。

ブースを訪れた文科省の方にも、中学校のカリキュラムとして取り上げられて間もないプラスチックに関する資料を提供している業界活動に興味を持っていただくなど、大変有意義なコミュニケーションの場が持てました。われわれの活動が、少しでも、プラスチック授業に貢献でき、更に理解が深まっていくことを期待します。

■ 随想

◇アフリカ旅行記 番外編：ちょっと意外なはなし（1）

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

皆さんが「チョコレートで有名な国は？」と聞かれたらどの国を思い浮かべますか？ スイス？ ベルギー？ 或いはアフリカのガーナ？

スイスはミルクチョコレートが生まれた国。そして、スイス人がベルギーに移り住み、ベルギーもチョコレートで有名になりました。

スイスのチョコレートも、ベルギーのチョコレートも基本的にはカカオ豆だけからつくられたものしかチョコレートとは言いません（最近、スイスはちょっとだけ植物油を混ぜてもいいということになったようですが、ほとんどのスイス人はそのようなチョコレートは本物ではないとしているようです）。

どちらの国もチョコレートにうるさいだけあって、国民一人当たりがチョコレートを食べる量は年間10キログラム以上だそうです（日本は2キログラム前後）。

でも、もっとチョコレートをたくさん食べる国があります。それはドイツ。年間11キログラムも食べているとか。ドイツ人がお腹の出ている理由はビールだけではない？

さて、話は戻って、アフリカのガーナはどうでしょう。日本では“ガーナチョコレート”が有名ですね。ガーナはチョコレートの生産地というより、原料となるカカオ豆の生産で有名な国です。生産量だけみると、1位はガーナのお隣、コートジボアール、2位はインドネシア、ガーナはこれらの国に続く世界第3位の生産量です。



でも、コートジボアールやインドネシアのカカオ豆を使っ
たチョコレートってあまりピンときませんよね。チョコレートの原料としては生産量と同様、多くのチョコレートに使われているそうですが、品質が安定していないため、高級チョコレートに使われることはほとんどないとか。美味しい、高級チョコレートは品質が安定しているガーナのフォラステロ種というカカオ豆が使われているそうです。 ※

美味しいチョコレートの原料を作っているガーナに行くと、取れたて、新鮮なカカオ豆を使った、本場のさぞおいしいチョコレートが食べられるだろうと期待して、首都アクラの街に降り立ちました。目指すは市内の市場。

お菓子屋さん発見！ ドライフルーツや飴、日本の麩菓子のようなもの、ナッツなどが売られています。しかし、チョコレートはない。別の店に行ってみました。やっぱりチョコレートはない。お店の人に「チョコレートは売っていないの？」と聞くと、「ここでは売っていないけど、市場の外にあるスーパーに売っているよ」と教えてくれました。早速、教えてくれたスーパーに行ってみると、日本でいうところの“明治屋”か“紀ノ国屋”と思うような外資系、超高級スーパー。恐る恐る入ってみると、ありました、チョコレート。でも、どのチョコレートもヨーロッパからの輸入品。もちろん、値段も超高級。こんなものは買えません。



普通の人が普段食べている、ガーナのチョコレートを食いたい。それには街を歩いている人に聞くのが一番ということで、「チョコレートどこで買っていますか？」と聞いてみたら、ビックリ。ほとんどの人がチョコレートは知っているけど食べたことがないとのこと。理由を聞くと、「あまりにも値段が高くて買うことが出来ない」。

本物の“ガーナ”チョコレート その理由を教えてくれた人がいました。「ガーナではカカオ豆の生産はしているが、チョコレート工場がない。だから、ガーナ国内で販売されているチョコレートは全て輸入品」。

ガーナ人の平均年収からすると、輸入チョコレートの値段は手軽に買えるものではありません。ガーナでは生産しているカカオ豆はほとんど全てが輸出作物だったのです。

現在では、ガーナにもチョコレート工場が出来、国内生産が始まりましたが、味の方は。。。もう少し、頑張りましょう (^_^;

ガーナ訪問の際、日本の“ガーナチョコレート”を持参しました。このチョコレートを街中で見せた途端、周りに集まった全員が大喜び。自分の国の名前が付いたチョコレートが、遠い日本で作られ、売られていることは、当然、誰も知りませんでした。少しずつ周りに集まった人たちに“ガーナチョコレート”を分けてあげたら、これもまた大好評。もちろん、初めてチョコレートを食べたという人も大勢いました（ガーナのチョコレート消費量は世界でも最低ランク。逆に、虫歯が少ないことでは世界トップクラスです）私が一躍、ガーナの人気者になったひと時でした \ (^O^)/

旧約聖書に出てくる、金銀財宝を携え、知恵者として知られたソロモン王を訪ね、難問をいくつも出してソロモン王の知恵を試したと言われる“シバの女王”の出身国、アラビア半島の南端にあるイエメン。このイエメンには「モカ」という港町があります。

「モカ」聞いたことがありますか？ モカコーヒーに使われるコーヒー豆のことです。コーヒー豆はエチオピアが原産だとされていますが、それをコーヒーとして飲むようになったのはイエメンの港町モカ。モカはコーヒー発祥の地とも言われています。

本場の「モカ」で、美味しいモカコーヒーを飲もうとこの地にやってきました。喫茶店に入り

私 「コーヒーください」（一応、アラビア語で注文しました）
お店の人 「ネスカフェだね」
私 「違う、コーヒーが飲みたい」
お店の人 「だから、ネスカフェでしょ」



※

ん??? 「モカ」ではカフワ（アラビア語でコーヒー）のことをネスカフェと言うのかなと、ネスカフェを注文してみました。出てきたのは、お湯が入ったコーヒーカップと、一杯サイズのインスタントコーヒーの袋。もちろん、世界ブランド、ネスカフェ製。

別のお店でも、高級ホテルでも、「カフワ」というと、出されるのはネスカフェのインスタントコーヒー。何が悲しくて、わざわざ日本からネスカフェを飲むために遥々イエメンまで来なくてはいけないのか（・_・）

モカに住む人に「豆から淹れたコーヒーは飲まないの？」と聞いたら、「そんな、お金を飲み込むようなバカなことはしない。コーヒー豆はお金と同じ」と言われてしまいました。

イエメンの人にとっては、コーヒーは飲むものではなく、『売るもの』＝『お金と同じ価値を持つもの』になってしまったようです。

結局、イエメン滞在中、本物のモカコーヒーは飲むことが出来ず、イエメンを出国する際、空港の免税店に売っていたモカコーヒーの豆を買って帰りました。

うーん、何だかなあ。イエメンから帰国してから、もう一度、イエメンに行って、本当のモカコーヒーを飲みたいと、ずっと思っています。

（つづく）

（※印の写真は、イメージです。）

次回は、番外編：ちょっと意外な話（2）です。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

先週田舎の田んぼにイノシシが入り稲を荒らされてしまいました。困いをしないといけないと思っていた矢先のことです。6 アール位の小さい田んぼですが半分くらいイノシシが駆けまわって、稲は倒れ、稲穂はちぎれ、籾も残っていません。最近は、イノシシだけでなく鹿の被害も多いようです。今年は冷夏、例年より稲刈りが遅くなりそうです。それまで稲が再び荒らされないよう祈っています。（ももった）

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 高橋 満

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp